

岩見沢駅周辺地区

(北海道岩見沢市)

- 計画期間 平成17年～21年
- 面積 77ha
- 交付対象事業費 4,684百万円
- 市人口 91,571人 (地区内人口 1,643人)

ポイント 鉄道のまちを象徴するシンボル空間の創造を核とし、市民や学生と共に進める中心市街地の再生

地区概要 駅周辺の交通結節点機能の強化・改善や歩行者空間整備を行うことで、魅力ある中心市街地の都市環境の創造を行う。また、市民、学生と行政が共に実施するソフト事業でまちづくりを進める。

目標 活発な交流が生まれ、快適でうらおいのある都市環境の創造

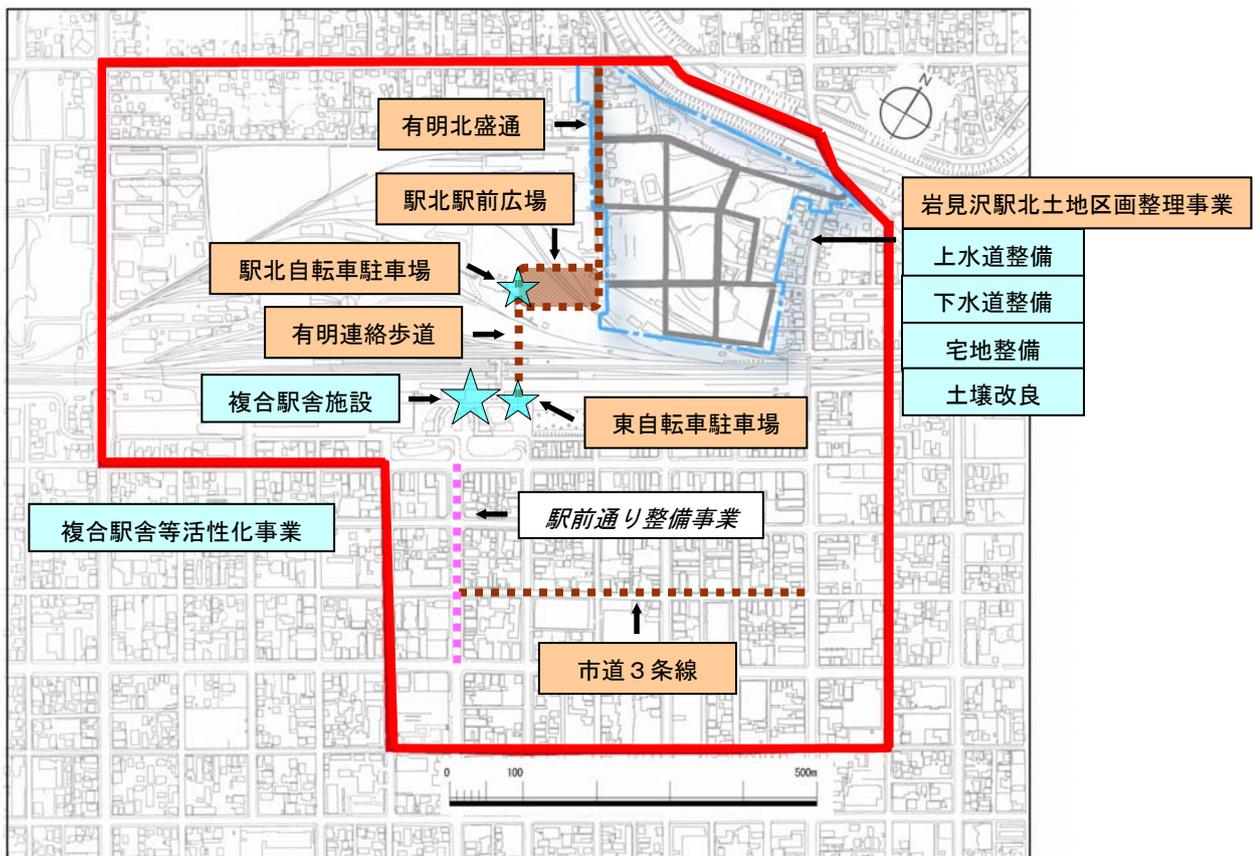
指標 中心市街地に来やすい環境、回遊したくなる環境の整備を図って、中心市街地への来街率の向上を目指している。

中心市街地への来街率	57% (H16)	→	68% (H21)
交通利便性の満足度	28% (H16)	→	56% (H21)
放置自転車台数	173台 (H16)	→	0台 (H21)

交通結節点機能の強化と環境の改善を行って、交通利便性の満足度の向上と放置自転車をなくすことを目指している。

事業内容 基幹事業 (3,281百万円) → 有明北盛通 (幅員18m、延長100m)・駅北駅前広場 (4,200㎡)、有明連絡歩道 (幅員6m、延長130m)、市道3条線 (幅員9m、延長450m)、東自転車駐車場 (750台)、駅北自転車駐車場 (300台)、岩見沢駅北土地区画整理事業 (7.6ha)

提案事業 (1,403百万円) → 複合駅舎施設 (1,525㎡)、上水道整備・下水道整備・宅地整備・土壤改良 (駅北地区 7.6ha)、複合駅舎等開設活性化事業



地区の現況と課題

岩見沢市は4本の鉄路が交わる「鉄道のまち」として発展し、現在は南空知圏の商業都市、行政・教育等の中心都市としての役割を果たしている。岩見沢駅周辺地区は本市の商業・業務の中心として賑わってきたが、居住人口の減少や高齢化、商店や事業所の減少等により空洞化が進行し、求心力が低下している。また、平成12年12月に岩見沢駅舎が焼失し、その再築が望まれていた。

中心市街地の賑わい再生のために、交通利便性の強化、新たな都市機能の導入、アメニティの高い都市空間の形成、安全に楽しく回遊できる環境づくり等が課題となっている。

鉄道による南北市街地の分断が生じており、都心部への交通アクセス性の向上、駅南北の均衡ある市街地形成が求められている。

提案事業の特徴

複合駅舎施設整備事業：JR岩見沢駅と市施設(市サービスセンター、物産販売、観光PR等)とを併せ持つ複合駅舎施設の整備を進めている。岩見沢の歴史と文化を象徴する、赤レンガと古レールという2つの素材を用いたデザインで、自由通路の昇降棟を加えると全長137mとなるファサードは、岩見沢の新しいシンボルとなる。

複合駅舎等開設活性化事業：複合駅舎施設に設けるセンターホール、市民ギャラリー等を利用して、市民、学生などが文化的な活動成果を発表するなど多様に交流できる場と機会を提供する。

上下水道整備、宅地整備：駅北駅前広場に隣接する土地区画整理事業区域において、上下水道の整備や宅地の整備を行い、衛生的で安全、安心で快適な宅地を提供する。

計画策定プロセス

複合駅舎を中心としたまちづくり

アンケート調査：複合駅舎に組み込むことが望ましい機能について市民の意見を集約した。

デザインコンペ：複合駅舎の設計に当たって、平成17年1月に全国規模のコンペを実施し、その最優秀作品に基づき、複合駅舎及び南北自由通路の基本設計・実施設計が行われた。

刻印レンガの寄贈：市民有志による岩見沢レンガプロジェクト事務局が主体となって駅舎の外壁に用いる刻印レンガの寄贈を全国から募集した。国外からを含めて4,777名の応募があった。平成20年12月のプレオープンイベントにおいて一般公開された

仮駅舎感謝イベント：市民、学生の参加を得て、整備の途中で解体になった仮設の駅舎に感謝の気持ちを表現したアートイベントを平成19年6月に実施した。

オープンセレモニー：平成21年4月に複合駅舎グランドオープンを記念したセレモニーを市民、学生とともに開催。

継続的なまちづくり

中心市街地活性化協議会が平成19年11月に設立され、今後はTMOに代り、中心市街地活性化の中心的役割を担っていく。



仮駅舎



複合駅舎の設計コンペに376点の応募。

3日間の一般公開で



約1,500人の来場。二次審査(プレゼン、ヒアリング)の一般公開で約150人の来場。



ありがとう!仮駅舎(アートイベント)



プレオープンイベント



複合駅舎完成

岩見沢市長のコメント

平成12年12月に岩見沢駅舎が焼失して以来、市民が、待望していた「まちのシンボル」となる複合駅舎（有明交流プラザ）、有明連絡歩道、駐輪場がついに完成しました。JR北海道との協議に時間を要しましたが、今の岩見沢の街中に何が必要かを、市民全体を巻き込んだ中で取り組み考えてきました。これらの施設は利用する方だけでなく、広く市民が交流できる場所として、これからのまちづくりにおいても中心的な役割を果たすこととなります。今後は多くの市民の皆さんに利用していただき、共に将来にわたって育んでいくという気持ちを持つことにより、新たなシンボルとして歴史を重ね未来に繋がっていくものと思います。

渡辺 孝一

岩見沢レンガプロジェクト本部長 にしまさき 仁志方紀氏のコメント

駅舎焼失後、新しい駅舎設計者との交流が始まり4年後複合駅舎が完成した。駅舎正面には、「赤い顔の刻印された4777個の煉瓦」が表情豊かに訪れる人々に語りかける。刻印されたイニシャル以外に検索すると、参加頂いた方々の個々の岩見沢に対する熱い応援のメッセージも頂いている。レンガプロジェクトの構成はメンバーと設計者、JR担当者、市担当者、更に学生と商店主の代表たちで、忌憚のない意見交換に時間を割いた。街の顔に拘る協議は、回を重ねヨソ者が地元人以上に牽引し、地元が動き、達成感の共有が更に人の広がり加速させた。再認識された地場資源と人材は、協議の大切さと、人との出逢い、完成の喜びを実感した。百年の計は「絆」で動き始めた。

岩見沢青年会議所理事長 ひらのよしふみ 平野義文氏のコメント

『まちとの連携』というテーマの下、まちづくりとどう関わっていくのかという提案に基づいて設計された駅らしく、建設過程において様々なまちづくりのムーブメントが起きました。我々JCとしても、これまでなかなか連携する機会に恵まれなかった団体、組織との協働など、駅舎周辺整備を取り巻く環境の中で沢山の恩恵を頂戴する事ができ、何よりの財産となっています。今後はこの完成した駅舎を一つの核とし、まちづくりにおける「ALL岩見沢」の実現に向けてさらに一歩踏み出す活動を展開していこうと考えているところです。